

令和元年大阪府民スポーツ大会
参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年5月6日 (月)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	・湯浅 剛氏 ・黒岡 和哲氏 ・茅野 修司氏 ・細見 竜太氏		
●スケジュール	令和元年5月6日 (月)		
	11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 (月) 13:45 ~		
	対戦カード	ミズノ VS 阪和興業	
	主審	主審 四谷氏	副審 正水
	講師／主任	茅野 修司氏	
	講評	・ゲーム全体で相手審判とのコミュニケーション不足だと感じるがあった ・アウトオブバンズやAOSの判断の答えをもっているのに、相手審判に伝え きることができなかった。 ・クルーチーフメンタリティーをもっと出していかなければならない。 ・ダブルホイッスルの場面でプライマリーではない審判がレポートに行くケース があった。	
	自己の感想	・ローカルルール(タイマー流し)の為、スローイン、レポート時に焦ってしまい、 タイマー・ショットクロックの確認がおろそかになってしまった。相手審判に指摘さ れるまでミスに気付くことができなかった。 ・ショットクロックの指摘をされてからは、タイマーなどの確認に気を取られ判定に 集中することができなかった。 ・相手審判の判定を訂正しに行く場面では、もっと相手に簡潔に伝わるように 工夫しなければならなかった。 ・閉講式の時に黒岡氏から話があったよう、大会のレギュレーションを詳しく確認 できていれば、落ち着いて試合に入れたと思った。	

2019 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年 5月6日(祝)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	湯浅様、黒岡様、茅野様、細見様		
●スケジュール	令和元年 5月6日(祝)		
	11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年 5月6日(祝) 13:45 ~		
	対戦カード	大阪教員 VS HOSバスケットボール実業団	
	CC	西田 尚樹氏	U1 廣瀬 俊之
	講師／主任	湯浅様	
	講評	・試合後の振り返りで、私は「接戦で厳しいゲームになると予想していた。軽いファウルは吹かないように心掛けた。」と述べた。講師の湯浅様から「ファウルに重いも軽いもない。ルールブックに書かれていることをゲームの中でどのように実践していくかが大切である。」という趣旨の話をしていただいた。 ・「判定や処置を間違えたと感じるときには素直に受け止め、その後のどのような感情でゲームに戻るかが大切である。」と言っていたき、自身にとってとても意識する必要があることだと感じた。 ・ゴール下でシュートに向かう際、ディフェンスのプレイヤーが体を反転させ、怪我をする危険のある現象があった。その際、「アンスポーツマンライクファウルにあたる可能性は頭によぎったか。」と聞かれたが、私自身はそのことを考えていなかった。自身が持っている情報をクルーで共有し、判断することの重要性を感じた。 ・ファウルやバイオレーションについてベンチやプレイヤーからアピールがあるケースがいくつかあったが、「映像で振り返りをして、判定がどうであったかをしっかりと確認することが大切である。」と言っていたき。映像をしっかり確認し、これからに活かしたい。	
	自己の感想	・自身の課題として、「ベンチやプレイヤーとのコミュニケーション」を大切にしようと心掛けていたが、アピールがあった際にうまくコミュニケーションが取れない場面もあった。どのようなカテゴリーのゲームであっても、ベンチやプレイヤーと円滑にコミュニケーションが取れるように工夫していきたい。 ・接戦になった中で、平常心を保ち自身のメンタルをいかにコントロールするかが大切であると感じた。どのような状況でも堂々としたプレゼンや立ち居振る舞いを意識したい。 ・積極的に判定に関わることは意識できた。以前は接戦になると笛が鳴らなくなってしまうことがあったが、接戦の中であっても自身が感じたことをより笛で表現できるようにしていきたい。 ・新ルールのショットクロックについて、TOの管理をより意識する必要があると感じた。特に24秒と14秒の確認は接戦の中でトラブルとならないように気をつけたい。また、処置が適切であるのかをクルーで協力できるよう心掛けたい。	

2019 年 度 第 1 回 B 級 審 判 員 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	2019年5月6日 (月)		
●会場	大阪市立東淀川体育館		
●講師	湯浅 剛 様、 黒岡 和哲 様 茅野 修司 様、 細見 竜太 様		
●スケジュール	2019年5月6日 (月)		
	11:30 開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技開始 18:00 閉講式		
●担当試合	2019年5月6日 (月) 13:45 ~		
	対戦カード	ミズノ VS 阪和興業	
	CC	四谷 和久	U1 正水 剛 氏
	講師／主任	茅野 修司 様	
	講評	クルーとしてコミュニケーションが合わず、OOBの訂正や、ファールの後の処置がフリースローかどうかの確認のためにクルーが寄ってきてくれた時に、プレーヤーの反応や場の空気とともに歩み寄ったクルーの意図を自分自身が受け入れる判断ができていなかった。 ゲームクロックを訂正するためにゲームを止めた時も、再開するにあたって両チームや観客等周囲の人たちが分かりやすいように、言葉を使ったり説明する時間を作るように心掛けることが必要。なぜ止めて、そのような処置をしたのか、自分だけが分かっていたら良いというように見られてしまう。 ゲームに臨むにあたって、二人で成功させようとした取組みが感じられなかった。プレゲームカンファレンスの中でもっと協力することを詰めていく必要がある。	
	自己の感想	プレゲームカンファレンスにて、ファール等の後の再開場所やショットクロックの残り時間について、積極的に声を出していきましょうと確認していたが、ゲームクロックの訂正処置について、訂正することだけに気を取られ、自分が分かっている情報を周囲の人に伝えることまでできなかった。スムーズに試合を進行するために、表現することをもっと意識していきたい。 また、自分の中で引っかかっていることが、そのままこの試合にも影響してしまい、引きずってしまう精神的な弱さが出てしまった。多くの情報を得ようと試みているが、それが何のためなのか、どう生かしていくかを自分の中で固めきれていない。判定・決断することへの躊躇が不安定さに出ているように思う。根拠をもって判定することで、自信と安定感に繋げていきたい。	

2019年度 B級 第1回 ステップアップ講習会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	2019年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	2019年 5月6日 (月・祝)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 細見 竜太 様 湯浅 剛 様		
●スケジュール	2019年 5月6日 (月・祝) 11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	2019年 5月6日 (月・祝) 15:00 ~		
	対戦カード	大阪ガス VS 大阪市消防局	
	クレー	CC 池嶋 一幸 U1 太田 令菜 氏	
	講師／主任	細見 竜太 様	
	講評	・このゲームを迎えるにあたっての、事前のスカウティングはあったのか。あまり先入観を入れすぎてもよくはないが、チームの情報を持つことでより良い判定につながる。 ・インナーなど身につけるもののチェックは大丈夫だったのか。 ・大きなトラブルはなかったが、ファウルのテンポセットを1Qでもっとハッキリとする。 ・クローズダウンをもっと有効活用することでより良い判定につながる。 ・リードポジションの時にセットアップポジションにステイしていることが多いので、ボールレベルにあわせて右サイドのプレイも視野に入れるようにする。 ・プライマリーをもっと意識する。判定自体はあっているが、誰が見るべきプレイなのかもう一度しっかりと確認する。 ・プライマリーを意識していない時間帯が多いので視野を当てていないエリアができています。 ・新しいポジションに入るのが早い。攻守が変わるときにもっとステイしてボールの保持まで確認する。ターンオーバーなどが起こった時に対応しきれない場面がでてくる。	
	自己の感想	・担当ゲームが決まった時に事前にスカウティングするなどの発想がなかった。いろいろな面でアンテナをはってゲームを担当すべきだと感じた。 ・自分ではクローズダウンポジションにいたと思っていたが、撮影していただいた映像を見ると全然いなかった。 ・今後より意識してポジションをとることでより良い判定につなげていきたい。 ・ダブルホイッスルになったときにパートナーともっとコミュニケーションをとるべきだった。 ・プライマリーを意識していないので、もう一度確認する必要がある。 ・そうすることでパートナーやT. Oともっと信頼関係を築くことができ、良いゲームにすることができると感じた。 ・当たり前のこと(ルールやマニュアル)をより徹底していくことの重要性を感じた。	

2019 年 度 第 1 回 ステ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年 5月6日(祝・月)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部		
●スケジュール	令和元年 5月6日(祝・月) 11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年 5月6日(祝・月) 16:15 ~		
	対戦カード	Psychopath VS triosHOMME	
	主審	田中 孝史 氏	副審 木村
	講師／主任	湯浅 剛 様	
	講評	・積極的に判定に参加すること →ビッグインパクトは逃さない。 →強いクルーチーフメンタリティーを持つこと。 →バスケットボールのプレイの理解、予測。 ・トレイル時の3番エリアへの意識 →立ち止まったままで眺めていることが多い。必要があるときは足を運ぶ。 ・正しい処置、ルールの正しい適用 →新ルール。テクニカルファウルを宣したときのショットクロックの確認。 クルーで対応する。余裕のあるパートナーがボールのステータスや ショットクロックなどしっかり把握すること。	
	自己の感想	上級審判員を目指すためのステップアップ講習会に参加させていただけることになり、推薦していただいた所属連盟長、また、ご指導して下さるインストラクター部の講師の皆様には感謝申し上げます。 今回の第1回目の講習で、同じ目標を持った他連盟の審判員の方々と自分とを比べた時に圧倒的に足りないと感じたことはクルーチーフメンタリティーの意識でした。どのようなゲームでもクルーチーフメンタリティーを強く意識し、積極的に判定に参加していくことが当面の課題であると感じました。	

2019 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年 5月6日 (月)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	湯浅 剛様・黒岡 和哲様・茅野 修司様・細見 竜太様		
●スケジュール	令和元年 5月6日 [(月)] 11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト (2グループに分けて) 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年 5月6日 (月) 12:30 ~		
	対戦カード	OASIS VS O' SANS	
	主審	玉上 大輔	副審 花谷 槇子
	講師／主任	黒岡 和哲様	
	講評	NEWルールでやるにあたり、まずゲーム前に気付いたことはないか。ソックスや、インナーの色等、チェックしているのか。 この大会はタイマー流しであったり、ローカルルールで行なっている部分もあるが、今日のルールテスト同様、新ルール、変わった部分に関してのチェックが甘い。 ベンチに入れる人数は何人か、などそういった部分も含め、事前にきちんと情報を得て確認し、たくさんの方に目配り気配りをする事でコート上での気付きや判定にもつながる。 プレゼンテーションの部分で、シュートを覗き込む形になっているが、そこは真っ直ぐ立って見れる位置まで足を運ぶように修正した方が良い。 シュートクロック・タイマーの管理については終始意識できていたのではないかな。 1QのEOQも、2or3も色々な場面でCCメンタリティは発揮できていた。 2POでダブルコールがあった際、トレイルから始まる自分がプライマリのケースでも相手にコールを譲るケースがあった。そういう点はプライマリの理解が低いのではないかと感じる。	
	自己の感想	最初にご指摘いただいたソックス等の件については自分自身確認を怠っていたことなので、今後のゲームは機材のチェック同様に、すべてのゲームで大会要項の確認等含め、改めていきたいと思いました。 ダブルコールになったケースで、自分のコールが続いていたり、スイッチがないと、同じサイドから見ることになる。という思いからコールを譲ってしまったケースがありましたが、映像で振り返っても、完全に自分のプライマリであったこともあり、マニュアルや競技規則に書かれていないことをしない、ということ学びました。 クロック管理同様、意識すること、習慣することの大切さも感じました。 このゲームを通じて感じたこと、学んだことを次のゲームにも生かしていきたいと思います。 このように学べる環境を準備して下さい、私たちの為に沢山の時間を費やしてくださっていることに感謝の気持ちを忘れずに、今後も日々研鑽を積んでいきたいと思います。	

令和元年 第1回ステップアップ講習会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技				
●日程	令和元年5月6日				
●会場	東淀川体育館				
●講師	湯浅剛氏 黒岡和哲氏 茅野修司氏 細見竜太氏				
●スケジュール	令和元年5月6日（土）				
	11:30 集合・開講式				
	11:40 ルールテスト				
	12:30 実技講習会				
	18:30 閉講式				
●担当試合	5月6日(月)		15:00		～
	対戦カード	Ares		V S 羅王	
	主審	主審	川崎氏	副審	森
	講師／主任	黒岡氏			
	講評	走るべき所での走りをもっと意識すること。トレイルがボールレベル まで下がれていないことが多く、その為、ボールマンとストレートラインになってしまい、確認ができないポジションになる事が多い。レ フェリータイムを取った時の状況を確認する事。			
	自己の感想	ベーシックな動きを基本としてコート上で動いていたが、そのベーシ ックな動きは何の為にあるのかをもっと自分の中に落とし込む必要が あると感じた。ベーシックな動きは何を見る為にその動きになっているのかを考え、コ ート上で自分はどのプレイを見たいのかを考え表現 するようにしたいと思う。			

大 阪 府 民 大 会 (B 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修)
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	大阪府民大会		
●日程	令和元年5月6日 (月)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	湯浅様 黒岡様 茅野様 原様 細見様		
●スケジュール	令和元年5月6日 (月)		
	11:00 集合・開講式		
	11:40 ルールテスト＊2グループに分けて実施		
	12:30 実技講習開始		
●担当試合	18:00閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 (月) 16:15 ～		
	対戦カード	新撰組	VS 大阪市役所
	主審	主審 平出 圭佑氏	副審 重松 志保
	講師／主任	茅野様	
	講評	・TOが不安な点についてもう少し早い段階で確認し、TOとクルーともコミュニケーションをとって改善することが大事。クロック管理を行っているけれど、思わぬミスがあったりが考えられるので予測準備が必要である。 ・立ち姿、振る舞いは良い。よりよく見せるためにプレゼンテーションを大きく力強く、スナップをきかせる。	
	自己の感想	トランディションの速さに走り負けないように予測をして取り組んだ。カンファレンスでは新ルールの確認、プライマリなど当たり前のことを確認することでいい準備となり挑むことができた。また気になることはアイコンタクトをとったり、タイムアウトの際によって積極的にコミュニケーションをとり1ゲームを終えることができた。 課題として、確認しているつもりができていなかったクロック管理や審判の見ていない隙によくない手の使い方などを映像を見て振り返り、今回の反省を次回に活かせるように準備していきます。	

2019 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年5月6日 (月)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	湯浅 剛 氏、原 一正 氏、黒岡 和哲 氏、茅野 修司 氏、細見 竜太 氏		
●スケジュール	令和元年5月6日 (月) 11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト (2グループに分けて) 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 (月) 16:15 ~		
	対戦カード	新撰組 VS 大阪市役所	
	主審	平出 圭佑	副審 重松 志保
	講師／主任	茅野 修司 氏	
	講評	クルーとして必要ところに笛が入っていてよかった。LEADからアングルが取れないところをTLAILからの笛が入っていた。2POでのTLAILは3POのTLAILとCENTERの役割を持っている中で、このような笛はとても重要になってくるのでクルーとして大切にしていってほしい。 最大の課題はTOコントロールだった。最初のアウトオブバウンズやファウルでゲームクロックが止まったときにショットクロックオペレーターが正しい秒数を示しているかを確認することでTOのレベルを把握しておくことが重要である。間違っていた場合にレフリーがきちんと訂正することによってTOは「見られている」という意識が生まれ、その後の集中力に大きく影響する。時計に限らず、映像にはっきりと残ってしまう時代であるので、1つひとつ丁寧にやっていき、レフリーが先手先手を取っていくことが重要。	
	自己の感想	クルーとして笛を入れることはできたと思うが、相手のPRIMARYのものをジャストでコールしているケースがいくつかあった。これはクルーワークを崩壊させる要因になるので大きな反省だった。ダブルホイッスルになったとしても、PRIMARYがレポートに行くことをクルーとして徹底できたことはよかった。 TOコントロールに大きな課題があった。ゲームの序盤からショットクロックが誤ってリセットされるなどいろいろあった中で把握できているところとできていなかったところがあった。そのために訂正のタイミングが全て後手になってしまったことが全てだと感じた。クルーとしてそれぞれが意識を持って把握していくことの重要性を強く感じたゲームだった。「まあまあ」にしてしまうと後手に回ってしまうので、把握してきちんと訂正することでレフリーとして先手先手を取っていくことができるよう努めていきます。 レギュレーションの部分で、ユニフォームの規定が正しいかどうか、身につけてはならないものがないか、ソックスの色などにも気づくことができるようにしていかなければならないと感じた1日だった。「競技が決めることだから」ではなく、ゲームの責任者であるレフリーも気づくことが大切であり、そのような意識が1試合を通してのスムーズなゲームコントロールに繋がるのではないかと感じました。 今回ステップアップ研修会に参加させていただくにあたって、協力してくださった皆様に感謝申し上げます。この学びを次の担当に活かすことができるよう、日々の準備に努めて参ります。	

第1回 ステップアップ講習会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年5月6日	月	～ 令和元年5月6日 月
●会場	東淀川体育館		
●講師	黒岡和哲様 湯浅剛様 茅野修司様 細見竜太様 原一正様		
●スケジュール	令和元年5月6日 月		
	11:30 開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 月 15:00 ～		
	対戦カード	大阪ガス VS 大阪消防局	
	主審	CC 池嶋	U1 太田
	講師／主任	細見竜太様	
	講評	・チームのスカウティングについて試合前にできたことがあった、情報を共有できる環境があるので、前もって持っていたら判定に繋がったケースもある。 ・4Qの基準で1試合を通して判定できれば良かった。前半に関してはもっと笛を鳴らさないといけないプレーがあった。悪質な接触が多かったのではないかな。 ・プライマリの理解をクルーで話すことができたか。ダブルコールになった時、コールに行くのが逆なケースがあった。 ・速攻で一緒に走りながら判定し、イリーガルなディフェンスを判定できなかった。早くベーシックな位置に入ることが理想だが、止まって判定するという判断を下す必要があった。 ・後半鳴らし始めたとき、マージナルなものも吹いてしまっていた ・2POでは1組だけ捕まえては足りない。最低2組は捕まえて、ボールとその周辺まで判定できるポジションをとる。特にレシーバーに対してはポジションをアジャストし捉えられるようにトレイルでは下がるタイミングが重要である。	
	自己の感想	・プレカンではプライマリの確認をしていたが、試合中にクルーとコミュニケーションを取れていないケースがあった。自分がプライマリという主張をしっかりすべきだった。 ・テンポセッティングができなかった。後半に意識して判定に臨んだが前半からすべき。 ・ピックインパクトへの対応。 ・新ルールやタイム管理についてはクルーと協力しゲームコントロールに繋がったことはできた。TOともコミュニケーションをとり、チームファウルについてはTOと協力し常に把握しクルーで情報共有できた。	

2019 年 度 第 1 回 B 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会バスケットボール競技		
●日程	令和元年5月6日 (月)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	黒岡 和哲 様・茅野 修司 様・湯浅 剛 様・細見 竜太 様・原 一正 様 大阪府審判委員会指導部・インストラクター委員会		
●スケジュール	令和元年5月6日 (月) 11時30分 集合・開講式(第1試合担当者は更衣を済ませておく) 11時40分 ルールテスト *2グループに分けて実施 12時30分 実技講習開始 18時00分 閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 (月) 12:30 ~		
	対戦カード	OASIS VS O'SANS	
	審判	主審 玉上 大輔	副審 花谷 慎子 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様	
	講評	何か気づいたことはなかったか？大会規定の把握と確認(スタッフ・ベンチの人数、シャツ、ユニフォーム、サポーター、ソックス、シューズなど)をしていたか？ TとLの判定のレポートが逆でプライマリーの理解ができていない。 フィットネスに不安がなければ走り方や位置取りに工夫が求められる。 時計(クロック・24秒)への意識をもっと高めること。 レポートは良くはなってきたが、シャープに見せれるようにする。また手の動き、止めかたの工夫をする。声も使っていくこと。 4クォータ、残り2分でのスローイン時で、プリペンティブシグナルをしったりしなかったりしている。ディフェンスがいるいないに関わらず、プリペンティブシグナルを続ける。 エンドスローイン時に早くコートに入りすぎているためラインなどの確認ができない。確認をするまではコートにはプレイヤーより先に入らない。 2Por3Pのショットの確認がパートナーが2Pと出しているのに確認とコミュニケーションが取れていない。 4クォーターのゲームクロックのホイッスルがTとLが同時になっていたの、なぜそうなったのか？	
	自己の感想	限られた時間の中、PGC(ガイドライン・メカ・新ルールの確認)をしました。映像で振り返りをした際に、2人同時にcallしたものは、全てクロスコールでした。2人同時にcallした際にエリアを持っているレフリーがプライマリーとレフリーディフェンスをしていれば、クロスコールは、なかったと思います。PGCの時に合図やアイコンタクトなどを決めておけば良かったです。NEW Lがととても遅かったり走り方の工夫、フィットネスの強化を改善が必要でした。映像を見るとcall後のプレゼンテーションも立ち振る舞いや見せ方、声を有効に使うことも意識できていなかった。プレゼンテーションが変に力強かったり、迷っているように見えていました。状況にマッチしたプレゼンテーションができるように練習し、改善したいです。ゴール下のドライブのインパクトについて、アングル、ステイをしていればcallができていました。パートナーにすぐ預けてしまい、目を切ることが多かった。2Por3Pのパートのヘルプを見落としていることがありました。パートナーの位置を視野に入れ、判定ができるように改善したい。また、1ゲームを通して時計(クロック・24秒)への意識が薄いため、注意力・確認力をもっと意識し、改善したいです。	

2019 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技				
●日程	令和元年5月6日 (月) ~ 令和元年5月28日 (火)				
●会場	東淀川体育館他				
●講師	黒岡 和哲 様、茅野 修司 様、湯浅 剛 様、原 一正 様、細見 竜太 様、開 康寿 石川 淳也 様				
●スケジュール	令和元年5月6日 (月)				
	11:30 開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技開始 17:45 閉講式				
●担当試合	令和元年5月6日 (月) 15:00 ~				
	対戦カード	Ares		VS	羅王
	主審	主審	河崎	副審	森 照代 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様			
	講評	・試合開始前にユニフォームや身につけるものなどのレギュレーションの確認を怠っており、T シャツを中に着たままプレーをしていたプレーヤーもいた。大会自体がローカルルールで運営されていたとはいえ、そもそもそこに目が向かなかつたのはクルー全体で反省すべき課題である。 ・印象としてクルー全体で余裕を持ってレフリングができていたが、T.O 管理、ショットクロック、タイマー管理において確認ができておらず不十分な点が多かった。(1 Qの序盤に2 4 秒のリセットミスを二人とも気づいていながらも訂正をしなかったことや、流れてはいけない場面でオールタイマーが流れていたなど。) ・L、Tともに動きが小さく、Tの位置も高かった。プレイにアジャスト、コネクトするためにも、ロートレイルや「1 歩の動き」を活用すべきである。 ・速攻の際に、クルーが遅れてしまった場合に3 vs2のヘルプは必ず行うこと。(L、Tともに3vs2が見えないケースはあるので、必ずヘルプできる準備をしておく。アウトオブバウンズと同様に、どちらかが確実に情報を持つておくことが大切である) ・試合開始時(特に1 Q)に判定のテンポセッティングを行う。(特に試合中にはじめて起こったケースについては判定に集中する。プレーヤーが混乱せずに気持ちよくプレーをさせるには試合序盤に基準を示すことが非常に重要である。) ・ファウルとして取り上げた判定のP O Cが違うケースがいくつかあったので、次の試合に向けて修正が必要である。 ・マージナルなケースも取り上げており、R S B Qをもっと見て判定をする必要がある。 ・ボールウォッチャーになっており、責任外のファウルも取り上げている時がある。メカ、エリアの理解が必要である。 ・ファウルの絵が完成してからコールするという判定も時には必要である。(ジャストコールが判定に不信感を与えるケースも多い。プレーヤー、ベンチがコールされて納得できるタイミング、笛の吹き方が求められる。)			
	自己の感想	・事前に行ったP G Cでは、2 P Oメカニック、エリア、新ルール、ガイドラインの確認を中心に綿密に行いました。その甲斐もあり、試合自体は大きなトラブルなく終えることができたと思います。 ・講師の黒岡様が述べられていましたが、服装などのレギュレーション、タイマー、ショットクロック管理に対する意識が低かったように思います。特に服装に関しては、日ごろあまり意識していなかったので、今後上級を目指していくためには判定やプレゼンだけでなく、ゲームという「商品」をよりよいものとして終わらせる責任が必要であると改めて感じました。 ・日ごろ中体連、高体連、学連の試合を中心に吹いてきていましたが、社会人連盟の試合を吹くことで、プレーヤーとのかかわり方や判定の仕方、プレゼンなどをより工夫する必要があると感じました。今後も他連盟の試合に参加してより多くの経験を積んでいこうと思います。ありがとうございました。			

2019 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年 大阪府民スポーツ大会 バスケットボール競技		
●日程	令和元年5月6日 (祝)		
●会場	東淀川体育館		
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部		
●スケジュール	令和元年5月6日 (祝)		
	11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 (祝) 16:15 ~		
	対戦カード	Psychopath VS triosHOMME	
	主審	主審 田中 孝史	副審 木村 裕也 氏
	講師／主任	湯浅 剛 様	
	講評	・CCとしてゲーム開始及び各ピリオド開始のポゼッションアローの確認を怠らない。・いくつかOverOfficiatingがあったがCrewとして信頼性が欠けることがあるし、気持ちが落ちてしまうことがあるので、気を付けなければならない。しかしOverOfficiatingの中でImpactが強かったブロッキングやイリーガルスクリーンのHelpはCCMが出ていて良かった。・2POなので3番エリアへの危機感がもう少しあっても良い。・TFを吹いたのは良いが後の処置までしっかりしなければならない。ショットクロックのリスタートの確認やスコアラーへの伝達。スコアの記載で「C」と「B」では意味が違うので、最後まで気を配る。・ProtectShooteの見方を工夫しなければならない。最後のProtectShooteを判定できないという事は、1ゲーム通してOverOfficiatingをしているため自分のPrimaryは判定出来ていない事になってしまうので、講師の立場からすると疑問がでてきてしまう。その様な事が起きない様にまず自分のPrimaryをしっかり判定する。・1ゲーム通して判定の中で、Marginalなものは削っていった方が良い。	
	自己の感想	このゲームをCCで割り当てして頂き、色々な事に気付かされました。1ゲーム通して判定をしてきましたがCrewに対してのOverOfficiatingの配慮が足りていなかったと痛感しました。また、TFやImpactが強かったブロッキングに対して対応出来た事は良いが、TFの処置がしっかり出来ていなかった事は反省すべき点であり、もう二度と同じ間違いはしないと、強く思います。Crewとのコミュニケーションを今以上にとり情報の共有を大切にする事と、スコアラーへの伝達やショットクロックの管理、重要な時間帯での対応が今後の課題です。最後になりましたが、この講習会を企画運営してくださいました方々、講師の方々、このような機会を与えてくださいました方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。	

2019 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年度 大阪府民スポーツ大会バスケットボール競技		
●日程	令和元年5月6日	(祝) ~	令和元年5月6日 (祝)
●会場	東淀川体育館		
●講師	黒岡 和哲 氏 湯浅 剛 氏 茅野 修司 氏 細見 竜太 氏		
●スケジュール	令和元年5月6日 (祝) 11:30 集合・開講式 11:40 ルールテスト 12:30 実技講習開始 18:00 閉講式		
●担当試合	令和元年5月6日 (祝) 13:00 ~		
	対戦カード	大阪教員 VS HOSバスケットボール実業団	
	主審	主審 西田 尚樹	副審 廣瀬 俊之 氏
	講師／主任	湯浅 剛 氏	
	講評	・OOBの判定に対して、クールの判定を尊重したうえで判定の訂正することができた。 ・ベンチの管理がうまくできずゲーム再開に少し時間をかけてしまい、ゲームコントロールが出来ていなかった。 ・映像を見て、判定したプレーの中でUF(C-2、C-3)にアップグレードすべきプレーがあった。クールとコミュニケーションをとり、情報を共有し、2人で協力して判定すべきであった。 ・決めていく形での『強さ』ではなく、本当の意味での『強さ』について考えていく必要があった。	
	自己の感想	クラー間でコミュニケーションをしっかりとること、オヴィアスなプレーへの判定をしっかりとすることを話し合いゲームに臨みました。前半は自分のエリアで起こるプレーに対して積極的に判定していくことが出来ましたが、後半でのテンポセットがうまく出来ず、プレーの変化に対応出来なかったことや、ベンチの管理がうまく出来なかったことが大きな反省として残っています。プレーヤーやベンチへの伝え方や声の使い方についても改善する余地がまだまだあり、自身の課題の1つになりました。 また、プレゼンテーションも自身の課題の1つと考えており、立ち振る舞いや見せ方も意識してゲームに臨みました。しかし映像を見て、レフリー時の立ち姿やレポートの仕方、走り方などまだまだ改善していくべき点があったので、上級レフリーの方のプレゼンを参考にし、もっと意識をしてよりよいプレゼンテーションを身に付ける必要があると思いました。 この研修会でいただいた貴重なアドバイスや自身が経験したことを今後につなげていきたいと思ひます。 最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。	